

## メディア科学リサーチセンター視聴覚コア・ワークショップ「聴覚皮質研究会」

メディア科学リサーチセンター視聴覚コア・ワークショップ「聴覚皮質研究会」は、平成19年11月27日に本学総合研究実験棟9F セミナー室で開催された。この研究会では、聴覚皮質における音情報処理機構を心理学的、生理学的、解剖学的、情報工学的に研究する国内の研究者を招き、最新の研究情報の交換を行った。発表は、招待講演が一件、一般講演が7件であった。参加者は17名（内本学10名）、発表後の懇親会には9名が参加した。

招待講演では、NTTコミュニケーション科学基礎研究所の古川茂人氏が「聴覚中枢における空間情報表現」という題目で、脳幹聴覚中継核を介して聴覚皮質に至る聴覚経路において音の空間的情報が神経回路的にどのように処理されるのかについての講演を行なった。一般講演では、同志社大学力丸裕教授による「テレマイクによるコウモリ生物ソナー機構解明」、山梨大学佐藤悠教授による「覚醒ネコ第一次聴覚野における単一神経細胞活動の多様性」、熊本大学宋文杰教授による「モルモット一次聴覚野における純音の表現」、本学堀川順生教授による「モルモット聴覚皮質領域間の機能的接続」、和歌山県立医科大学木村晃久准教授による「大脳皮質聴覚野と視床核の機能連関」、帝京大学工藤雅治教授による「ラット聴覚連合野に依存する合成母音・合成子音の弁別学習」、東京医科歯科大学小島久幸講師による「自由行動下モルモットにおける一次聴覚野ニューロンの非聴覚性刺激に対する応答性」の発表が行われた。それぞれの発表に関して活発な議論が行われた。